平和を希求する心を育てる取組

報告年月日　　２０１８年１１月９日
都市名・国　　大阪府大阪狭山市・日本

取組の名称	親子で学ぶ平和スタディツアー
実施主体 （該当項目に✔）	□学校　■自治体　□ＮＧＯ　□複合（　　）
テーマ・目的	戦争体験の継承　　（例:核兵器廃絶、テロ、暴力など）
対象者 （年齢･学年、人数等）	小中学生とその保護者１０組２０名 （例:12 歳の子ども 60 名、保護者や市民 30 人など）
実施場所	大阪城公園周辺と大阪国際平和センター（ピースおおさか）
実施期間	2018　年８　月　11 日～　2018 年８月　11 日（　1　日間） ※定期的に行う取組は、その旨を記入し、いつから、どれくらいの頻度で実施しているかを報告してください。

取組の概要（授業、イベントはプログラムの次第を、その他（例：コンテスト等）はそのプロセスを、具体的に記入してください。）

戦争を体験した世代が高齢化していることから、身近に戦争体験を知る機会が失われつつある。小中学生だけでなく、その保護者も親から戦争体験を聞くことができない世代になっていることから、参加体験型の事業としてスタディツアーを今年度初めて実施した。

内容は大阪城周辺の戦跡と大阪国際平和センター（ピースおおさか）館内の見学をそれぞれ、地元の歴史研究会の方を講師に招いて実施。館内見学の最後に大阪大空襲の体験講話を行った。

■行程

大阪狭山市役所→大阪城公園（フィールドワーク）→昼食→ピースおおさかの見学と戦争体験者による講話→大阪狭山市役所

参加者の反応

戦争についての知識はあったが、現在観光地化している大阪城周辺にも戦争の傷跡がいまだに残っていることに驚きを感じていた。また、保護者と一緒に参加することで平和や戦争について話すきっかけとなったとの感想が見られた。

成果

個人では学ぶ機会がなかなか持てない中で、戦争体験の継承や見聞きして考える機会が提供できたことは一定の成果であった。また、講師の方が「自分で考える」ことに重点を置いた投げかけを行っていただいたので、社会教育のプログラムとしても効果があった。

課題

・参加者の拡大。「戦争、平和」というテーマに特化することが参加のハードルを高めてしまう。
・講師の確保。大阪府においては府域でコーディネートできる公的勘が存在しない。実施主体の担当者のスキルやネットワークで質が全く変わってしまう可能性がある。
・東アジアとの関係性についての知識の不足。今回の行程では、大阪砲兵工廠を中心としたフィールドが対象となったが、ピース大阪の植民地の説明やフィールドワーク時に工場で多くの朝鮮半島出身者が働いていたこと、そうした歴史の中で周辺にコリアンタウンがあることを紹介したことに「意図的なものを感じる」という保護者の感想があった。平和学習そのものが政治、思想の物差しとしてとらえられてしまっており、今後の継続については学校などと連携した取り組みが必要だと感じた。

取組で使用した素材について（図書、映像、パワーポイントなど。内容をわかりやすく簡潔に記入してください。） ・ピースおおさかの展示クイズ（講師作成）　展示を見てどう感じたか？や当時の子どもたちと参加者を比較してもらうことで、戦争や平和を自分のこととして考えてもらう内容 ・ピースおおさか作成の大阪城周辺フィールドマップ　見学時に掲載されていない内容も多くあった
上記素材の共有の可否（取組で使用した素材を、平和首長会議の WEB サイトに掲載し、他都市と共有することに、著作権その他の問題がないか、次からお選び下さい。） ■掲載可能（素材を添付してください）　□掲載不可　□不明

※　画像等の資料がある場合は別ファイルで提出してください。

親子で学ぶ平和スタディツアー

製鉄の材料であった公園内の石に磁石を近づける

大阪大空襲の体験者の講話

母と子の像を見学する

銃痕の残る石垣について説明を受ける

モデルコース A 大阪城公園内の史跡と戦跡を訪ねる

（全 16 箇所 目安 2 時間 30 分 ピースおおさか見学 40 分を含む）

スタート地点 天満橋駅（京阪・Osaka Metro 谷町線）

1. 大阪砲兵工廠化学分析場
2. 大阪砲兵工廠荷揚げ門（川の対岸から見る）
3. 砲兵工廠跡碑
4. 青屋門（1969 再建）
5. 真心碑（女子防空通信手の碑）
6. 山里曲輪の石垣に残る機銃掃射あと
7. 大阪城天守閣のずれた石垣
8. 旧第四師団司令部
9. 大阪に残る戦争の傷跡銘版
10. 大阪陸軍兵器支廠本部門
11. 大手門
12. 原爆被爆者三十周年記念樹
13. 教育塔
14. 城南射撃場跡碑
15. 大阪府傷痍軍人会・同妻の碑
16. ピースおおさか（大阪砲兵工廠診療所跡）

ゴール地点 森ノ宮駅（（JR 環状線・Osaka Metro 中央線・長堀鶴見緑地線）

ちょっと足をのばせば ● 京橋駅爆撃被災者慰霊碑があります。（JR 京橋駅南改札口付近）

モデルコース A 大阪城公園内の史跡と戦跡を訪ねる

（全 16 箇所 目安 2 時間 30 分 ピースおおさか見学 40 分を含む）

① 大阪砲兵工廠化学分析場

1919（大正 8）年、寝屋川にかかる京橋の南側に建てられた左右対称のネオ・ルネッサンス風赤レンガ 2 階建の重厚な建物。新兵器の開発や研究、化学試験などがここで行われていた。戦後すぐは大阪大学工学部校舎、その後1995（平成7年）年まで自衛隊大阪地方連絡部庁舎として使用されていた。建築家の置塩章（おじおあきら）氏の設計による。

② 大阪砲兵工廠荷揚げ門

設立当初の砲兵工廠は、材料の搬入や製品の輸送を水運に頼っていたため、1871（明治 4）年、平野川（第二寝屋川）に水門を設けてスロープをつけ、船が工場内に出入りできるようにし、荷揚げ、積み込みを行っていた。その花崗岩造りのルネサンス風の美しいアーチ水門が大阪城ホールの北西側に残っており、対岸側から見ることが出来る。

③ 砲兵工廠跡碑

「砲兵工廠跡」と刻まれた高さ 1.5m、幅 2m の花崗岩の記念碑。1959（昭和 34）年に、もと工廠従業員の親睦団体「大阪廠友会」が碑を建てた。8 月 14 日の最後の大空襲で最も多くの犠牲者を出した第 3 旋工場跡地に建てられていたが、1983（昭和 58）年にここに移設された。碑面裏には、砲兵工廠の沿革、概要が記されている。

⑥ 山里曲輪石垣の弾痕

1945（昭和 20）年頃になると、大阪城上空にもアメリカ軍戦闘機がたびたび現われた。山里曲輪付近の石垣には、その戦闘機の機銃掃射によるものと思われる弾痕が、いくつか残っている。なかには直径が 30cm くらいの大きな弾痕もある。終戦直後は、城内あちこちの石垣が崩れるなど荒廃しきっていたが、その後、修復・整備され現在にいたっている。

⑦ 大阪城天守閣のずれた石垣

1945（昭和 20）年の大阪大空襲では、天守閣そのものの破壊は免れたが、屋根に無数の焼夷弾が落ち、西南隅と東北隅には 1 トン爆弾が落ちた。西南隅は石垣下部の一部が吹き飛ばされ、現在は石板を貼って補修している。東北隅は直撃を免れたものの土台基部がえぐられ、石垣が傾いた。現在見られる石垣のずれはそのためである。

⑧ 旧陸軍第四師団司令部庁舎

1931（昭和6）年竣工。陸軍第四師団司令部庁舎として天守閣復興資金の過半を割いて建設し陸軍に寄付された純軍事施設で、ドイツの古城を模した地下1階地上3階（中央部分4階）の重厚な建物。1940（昭和15）年～45（昭和20）年、中部軍管区司令部庁舎になった。戦後は占領軍の施設にあてられ、立ち入りが禁止された。1945（昭和20）年、本土空襲に備えて司令部前一帯に地下壕が掘られた。延べ300mの地下壕で、戦後、この地下壕はある程度埋められた。

モデルコース A 大阪城公園内の史跡と戦跡を訪ねる

（全 16 箇所 目安 2 時間 30 分 ピースおおさか見学 40 分を含む）

⑩ 大阪陸軍兵器支廠本部門

天守閣南にある第四師団司令部を中心として、その周辺には、大阪砲兵工廠をはじめとする軍施設が集中していた。その一つとして西側に大阪陸軍兵器支廠があり、兵器、兵器材料の保管、修理などにあたっていた。現在の西ノ丸庭園一帯約 15 万㎡（5 万坪）に多くの倉庫等があった。戦後、建物は撤去されたが、西ノ丸庭園南側の大阪城公園城内詰所の門柱と塀は当時のものである。

⑪ 大手門

大手口は大阪城の表玄関にあたる。1628（寛永 5）年に建造。幕末に修復、さらに終戦後に解体修理された。大手門は戦火を免れた貴重な建造物で、現在、重要文化財に指定されている。

⑯ ピースおおさか

第二次世界大戦末期の 50 回をこえる空襲により大阪は廃墟と化した。空襲の被害を記録し戦争の悲惨さと平和の尊さを後世に伝えるために、大阪府と大阪市が共同で設置。館内では、空襲の被害や戦時下の生活のようすなどを映像や実物資料・模型などで紹介。中庭には大阪空襲犠牲者の名前が刻まれたモニュメントがある。

● 京橋駅爆撃被災者慰霊碑

1945（昭和 20）年 8 月 14 日、B29 爆撃機 145 機が大阪砲兵工廠に 707 トンの爆弾を投下した。1 トン爆弾 4 発が国鉄（現 JR）京橋駅に落ち、片町線ホームを 1 発が直撃し、数百人の命が奪われた。悲惨さに衝撃を受けた大東市の森本栄一郎氏が 1947（昭和 22）年 8 月 14 日慰霊碑を建立。その後、仏尊像と納経塔が建立され、毎年 8 月 14 日空襲のあったこの地で慰霊祭が行われている。

モデルコース B 大阪城周辺の歴史と戦跡を訪ねる

（全 10 箇所 目安 2 時間 30 分 歴博見学 1 時間、ピースおおさか見学 40 分を含む）

スタート地点　谷町四丁目駅（Osaka Metro 中央線・谷町線）

1. 大阪歴史博物館見学
2. 難波宮大極殿跡
3. 第八連隊碑
4. 第三十七連隊碑
5. 大村益次郎殉難碑
6. 越中井（細川ガラシャ死没地）
7. 森之宮遺跡（ピロティホール地下）
8. ピースおおさか（大阪砲兵工廠診療所跡）
9. 大阪府傷痍軍人会・同妻の碑
10. 爆撃跡が残る狛犬台座（森ノ宮神社）

ゴール地点　森ノ宮駅（JR 環状線・Osaka Metro 中央線・長堀鶴見緑地線）

ちょっと足をのばせば　● 京橋駅爆撃被災者慰霊碑があります。（JR 京橋駅南改札口付近）

モデルコース B 大阪城周辺の歴史と戦跡を訪ねる

（全 10 箇所 目安 2 時間 30 分 歴博見学 1 時間、ピースおおさか見学 40 分を含む）

① 大阪歴史博物館

大阪歴史博物館は、“都市おおさか”の歴史や文化を実物大の模型や豊富な実物資料をもとに楽しく学べる博物館です。10～7階の常設展示で各時代を紹介、10 階では奈良時代の難波宮大極殿を実物大で再現、9階では江戸時代「天下の台所」の大坂を紹介。7階では大正から昭和の大大阪の様子を復元。展示にちなんだスタンプラリーやハンズオンなど催しも盛りだくさんです。

② 難波宮大極殿跡

7 世紀の孝徳天皇の時代に前期難波宮が、8 世紀の聖武天皇の時代に後期難波宮がと、2 度にわたって宮が築かれた。天皇の居所である内裏と重要な政務・儀式をとり行う朝堂院を中心に多数の建物が建ち並ぶ壮大なものであった。特に後期難波宮では大極殿と朝堂は凝灰岩で覆われた基壇の上に礎石を置いて建てられていた。現在、その基壇部分が復元されている。

③ 旧陸軍第八聯隊跡碑

歩兵第八連隊の兵営は、1874（明治 7）年の創設当初、現在の国立大阪病院の地にあったが、1897（明治 30）年、現在の難波宮跡に移転した。第三十七連隊とともに第四師団管下の基幹部隊となり、15 年戦争の間、中国、南方方面を転戦した。終戦までは、馬場町交差点から南の内久宝寺町通りの間、上町筋をはさんで東西に兵舎のコンクリート塀が延々と続いていた。

④ 旧陸軍第三十七聯隊跡碑

歩兵第三十七連隊は、1896（明治 29）年に創設され、兵営は、1898（明治 31）年、第八連隊が移転した跡に設けられた。第八連隊とともに、第四師団管下の基幹部隊となり、15 年戦争の間、中国、南方方面を転戦した。上町筋をはさんで歩兵第八連隊と歩兵第三十七連隊が東西に対置していた。

⑤ 大村益次郎殉難碑

大村益次郎は、明治新政府で軍隊の創設に尽力した人物。しかし 1869(明治2) 年 9月京都で襲われて重傷を負った。一命をとりとめ大阪へ移り浪華仮病院で治療を受けたが、そのけががもとで同年 11 月に死亡した。

この碑は、1940（昭和 15）年に建立された。この碑の南へ少し行った所に、浪華仮病院（現・大福寺）があった。殉難碑の発起人等には、林銑十郎（陸軍大将･第 33 代総理大臣）、東条英機（陸軍大将・第 40 代総理大臣）、鳥居信治郎（サントリー創業者）、坂間棟治（第9 代大阪市長）をはじめ、当時の政・経・軍・官の指導者が多く名を連ねている。

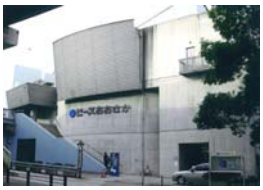
⑥ 越中井（細川ガラシャ死没地）

このあたりには秀吉政権下の大名細川（越中守）忠興邸があり、井戸は邸内にあったものといわれる。関ケ原戦の直前、忠興が家康に従い出陣中に、石田三成らは諸大名の妻子を人質にしようとした。忠興夫人玉子(洗礼名ガラシャ）はこれに従わず、この地で37歳の生涯を閉じた。玉子は明智光秀の三女としても知られている。近くの聖マリア大聖堂前には、細川ガラシャとキリシタン大名高山右近の像がある。

モデルコース B 大阪城周辺の歴史と戦跡を訪ねる

（全 10 箇所 目安 2 時間 30 分 歴博見学 1 時間、ピースおおさか見学 40 分を含む）

⑧ ピースおおさか



第二次世界大戦末期の 50 回をこえる空襲により大阪は廃墟と化した。空襲の被害を記録し戦争の悲惨さと平和の尊さを後世に伝えるために、大阪府と大阪市が共同で設置。館内では、空襲の被害や戦時下の生活のようすなどを映像や実物資料・模型などで紹介。中庭には大阪空襲犠牲者の名前が刻まれたモニュメントがある。

⑩ 弾痕が残る狛犬の台座（森之宮神社）

森之宮神社は聖徳太子ゆかりの神社として知られている。1945(昭和 20)年、度重なる空襲によって被害を受け、焼け残った建物も 7 月の爆撃で失われた。その中で、森之宮神社の玉垣と狛犬だけが昔をとどめており、狛犬の台座には空襲の弾痕がはっきりと残っている。この狛犬はもとは青銅製であったが、金属供出で献納され、1944（昭和 19）年に石造りで再建されていた。

● 京橋駅爆撃被災者慰霊碑

1945（昭和 20）年 8 月 14 日、B29 爆撃機 145 機が大阪砲兵工廠に 707 トンの爆弾を投下した。1 トン爆弾 4 発が国鉄（現 JR）京橋駅に落ち、片町線ホームを 1 発が直撃し、数百人の命が奪われた。悲惨さに衝撃を受けた大東市の森本栄一郎氏が 1947（昭和 22）年 8 月 14 日慰霊碑を建立。その後、仏尊像と納経塔が建立され、毎年 8 月 14 日空襲のあったこの地で慰霊祭が行われている。